

南半球便り（その 59）：ダーウィン再訪

2 月 25 日

2 月 17 日から 20 日まで、北部準州の州都ダーウィンを訪問してきました。南半球便りの「その 4」で報告しましたが、あれから一年ぶりの訪問でした。最高気温が優に 30 度を超える雨期の多湿なダーウィン。体力的にきつい出張でしたが、実り多いものとなりました。

1. 80 周年

今年は節目の年。というのも、1942 年 2 月 19 日のダーウィン空爆の 80 周年に当たるからです。ハーレー総督、モリソン首相、アルバニー野党党首、ダットン国防大臣等の要人が参列し、盛大に記念行事が行われました。



80 周年式典でモリソン首相と

日本軍による空爆は、1942 年 2 月から 43 年の 11 月に至るまで、64 回にわたったと伝えられています。多くの歴史家が一致するところですが、これは豪州侵略を意図した攻撃ではなく、旧日本軍による、いわゆる FS（フィジー・サモア）作戦の一環として、当時の日本の主敵であった米軍に対する豪州からの補給路を断つことに主眼があったと分析されています。

そうであっても、空爆の惨禍は否応なく一般市民を巻き込みます。この点は、1945年3月10日の一晩で約10万人の死者を出した東京大空襲、広島・長崎の甚大な原爆被害を経験した日本人こそ、良く理解できる立場にあるでしょう。ましてや、豪州にとっては、いまだかつて豪州本土を空爆したのは日本軍だけ。したがって、ダーウィンに赴くたび、鉛のような歴史の重みを感じるのです。

2. モリソン首相の心温まるスピーチ

そうした中で、式典でのモリソン首相のスピーチには大いに元気づけられました。過去の事象に焦点を当てるのではなく、和解の象徴として2018年にモリソン首相が安倍首相（当時）と連れ立ってダーウィンの慰霊碑に献花したこと、現在の日本が豪州にとって最も信頼でき、かつ、最も忠義に厚い安全保障上のパートナーであることを力強く強調してくれたからです。

のみならず、式典終了後、真っ先に私のところへ駆けつけてくれました。そして、「大使、出席ありがとう。」と語りかけ、堅く手を握られました。さらに、猛暑対策として式典で配布されていた日本風扇子に、親交を結んできた日本の総理3名の名前を手書きで記し、私に渡してきたのです。モリソン首相らしい気遣いでした。

また、式典で献花を終えて自席に戻ろうとした時にも、何人かの豪州人が拍手で迎えてくれました。心温まるものがありました。



モリソン首相から手渡された扇子

3. 伊号 124 潜水艦

日豪の和解を象徴する重要な行事が、他にもありました。

空爆に先立つ 1942 年 1 月 20 日、ダーウィン沖合で旧日本海軍潜水艦の伊号 124 が豪・米連合軍の攻撃を受けて沈没しました。今回、岸上艦長以下、80 名に上る乗員全員の氏名と階級を記した記念碑の除幕式を行うことができたのです。



80 名に上る潜水艦乗員全員の氏名と階級を記した記念碑（左）

記念碑の除幕式におけるスピーチ（右）

南半球便り（その 4）でも記しましたが、80 名の英霊のご遺体は、今なお海底に横たわる潜水艦の艦内に残されたままです。彼らの献身と犠牲に対し、後生の平和と繁栄を享受してきた人間として、深甚なる謝意を表し、精一杯の手向けをさせていただきたいとの気持ちで、関係者がこの一年間尽力を重ねてきたのです。

ショウ由美子会長を始めとする北部準州豪日協会の皆さん、紀谷総領事その他の在シドニー日本総領事館関係者、キャンベラの日本大使館の麻生防衛駐在官（海上自衛隊出身）。彼らの粘り強い努力なくして、この記念碑は建立できませんでした。

そして、北部準州政府の心強い協力。予算措置を講じてくれた上に、除幕式には、オハラ行政長官ご夫妻、ガナー首席大臣はじめ、北部準州要人が揃って出席されました。

【日本のテレビでの報道ぶりは、[こちら](#)をご覧ください。】

【除幕式での私のスピーチは、[こちら](#)をご覧ください。また、米国駆逐艦ピアリー号献花式での私のスピーチも、[こちら](#)でご覧いただけます。】

4. 北部準州州議会での演説

対外発信の一環として、私は地方出張に行くたび、最低一回は講演かインタビューをすることにしています。今回もそうした問題意識で講演先を探していたら、昨年の訪問の際にお世話になった北部準州政府のブレイキー儀典長のはからいにより、なんと州議会で演説をする機会に恵まれました。



北部準州議会におけるスピーチ（写真撮影：北部準州政府）

先方によれば、おそらく日本大使として初めてとのこと。ナリー・ア・キット議長の紹介を受け、ガナー首席大臣及びフィノキアーロ野党党首の温かい歓迎の言葉に迎えられました。お陰様で、クアッド（日豪米印）、安全保障協力、経済関係、文化・観光など、日本と北部準州との間の協力関係について、じっくりと語ることができました。

講演後、何人もの議員や要人の方から「面白かった。」との反応が寄せられた時、朝4時に起床し、シドニー経由のフライトで合計6時間近くかけてダーウィンに駆けつけた疲れなど、吹き飛びました。何よりも、大使室で私と額を突き合わせてスピーチの起案に腐心してくれた優秀な現地職員の同僚に、真っ先に伝えたいとの思いに駆られました。まさに一本のスピーチも、緊密な日豪協力の賜なのです。

【州議会でのスピーチは、[ここ](#)をご覧ください。】

山上信吾